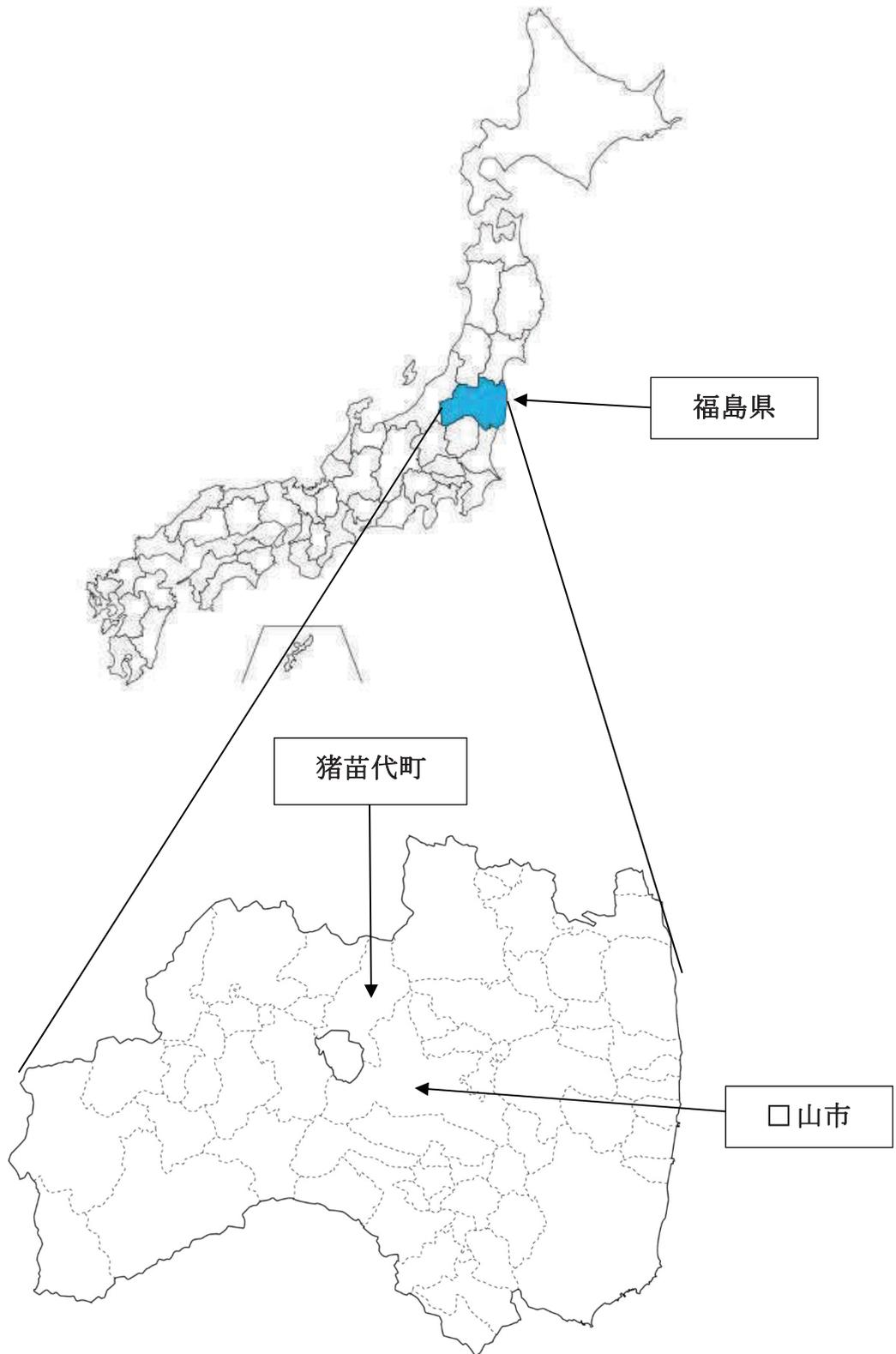


① 申請者	◎郡山市 猪苗代町	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
(ふりがな)	みらいをひらいた「いっぽんのすいろ」ーおおくぼとしみち“さいごのゆめ”とかいたくし やのきせき こおりやま・いなわしろー		
未来を拓いた「一本の水路」ー大久保利通“最期の夢”と開拓者の軌跡 郡山・猪苗代ー			
④ ストーリーの概要 (200字程度)			
<p>明治維新後、武士の救済と、新産業による近代化を進めるため、安積地方の開拓に並々ならぬ想いを抱いていた大久保利通。夢半ばで倒れた彼の想いは、郡山から西の天空にある猪苗代湖より水を引く「安積開拓・安積疏水開さく事業」で実現した。</p> <p>奥羽山脈を突き抜ける「一本の水路」は、外国の最新技術の導入、そして、この地域と全国から人、モノ、技を結集し、苦難を乗り越え完成した。この事業は、猪苗代湖の水を治め、米や鯉など食文化を一層豊かにし、さらには水力発電による紡績等の新たな産業の発展をもたらした。</p> <p>未来を拓いた「一本の水路」は、多様性と調和し共生する風土と、開拓者の未来を想う心、その想いが込められた桜とともに、今なおこの地に受け継がれている。</p>			
			

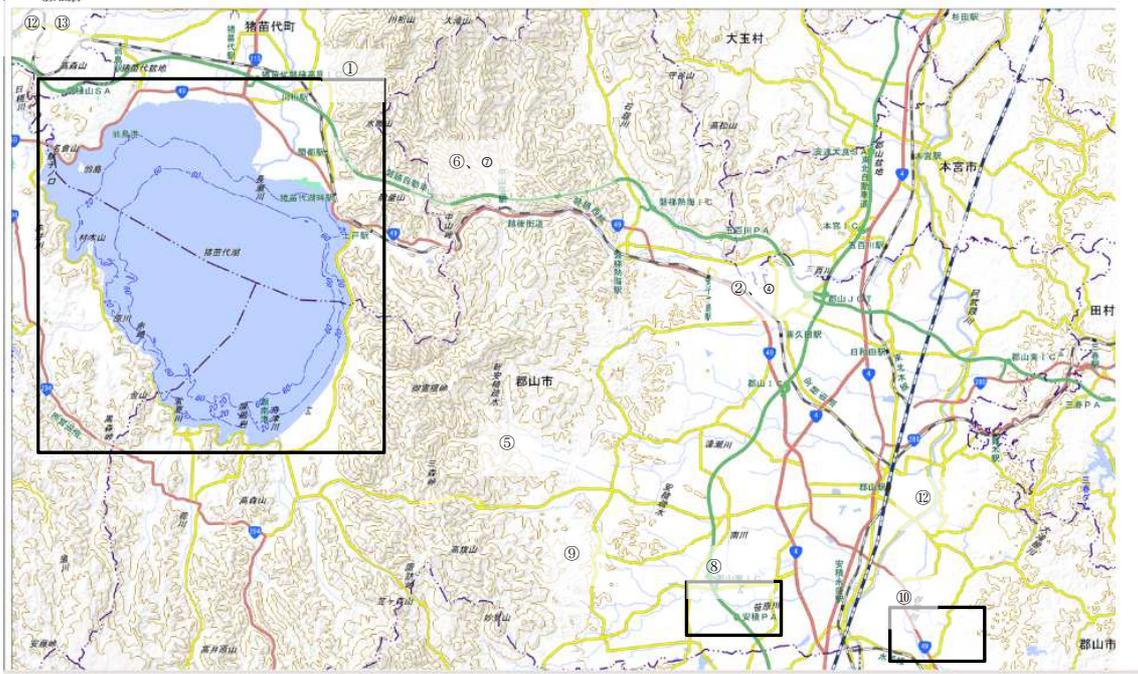
市町村の位置図 (地図等)



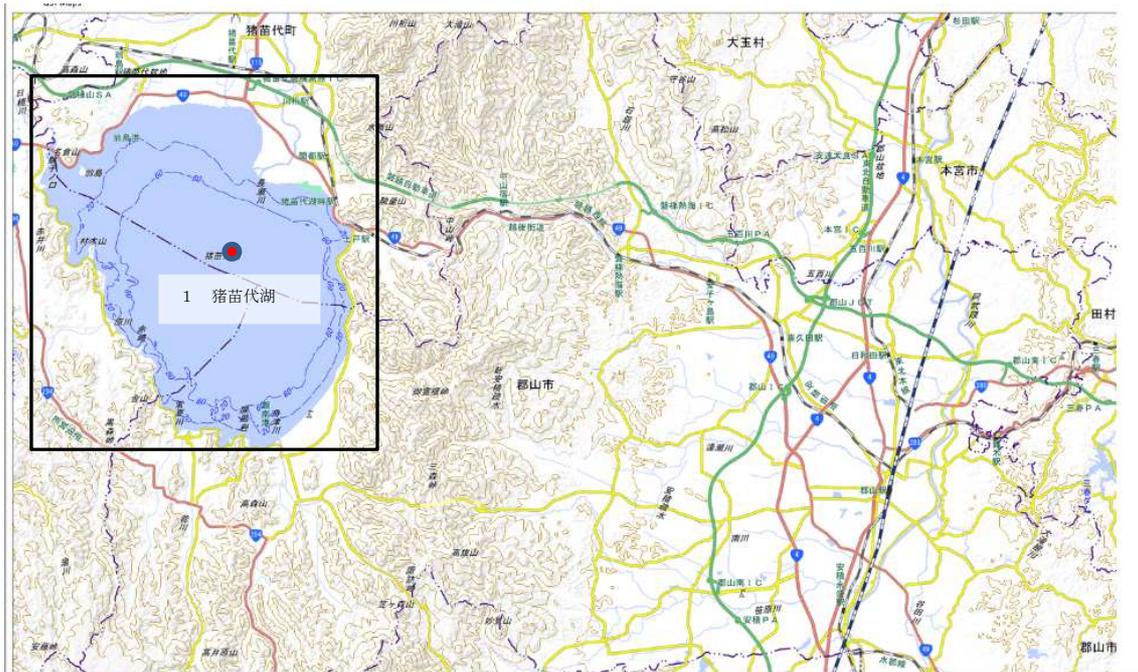
構成文化財の位置図 (地図等)

※構成文化財がある地域を拡大し、構成文化財の位置を示す
(様式 3 - 1 の番号に対応させること)

【全体図】 (①～⑬は各地域の地図を示している)

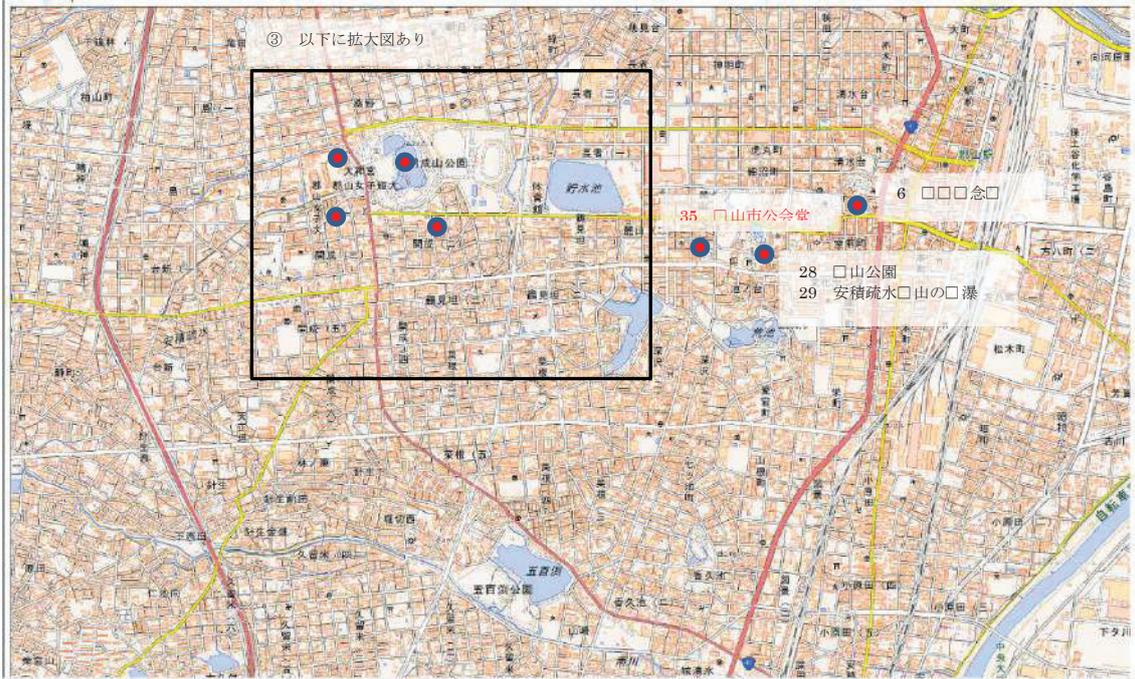


①



出典：国土地理院ウェブサイト (<http://maps.gsi.go.jp/>)
地理院地図を加工し作成 (以降のページの地図全て同様である)

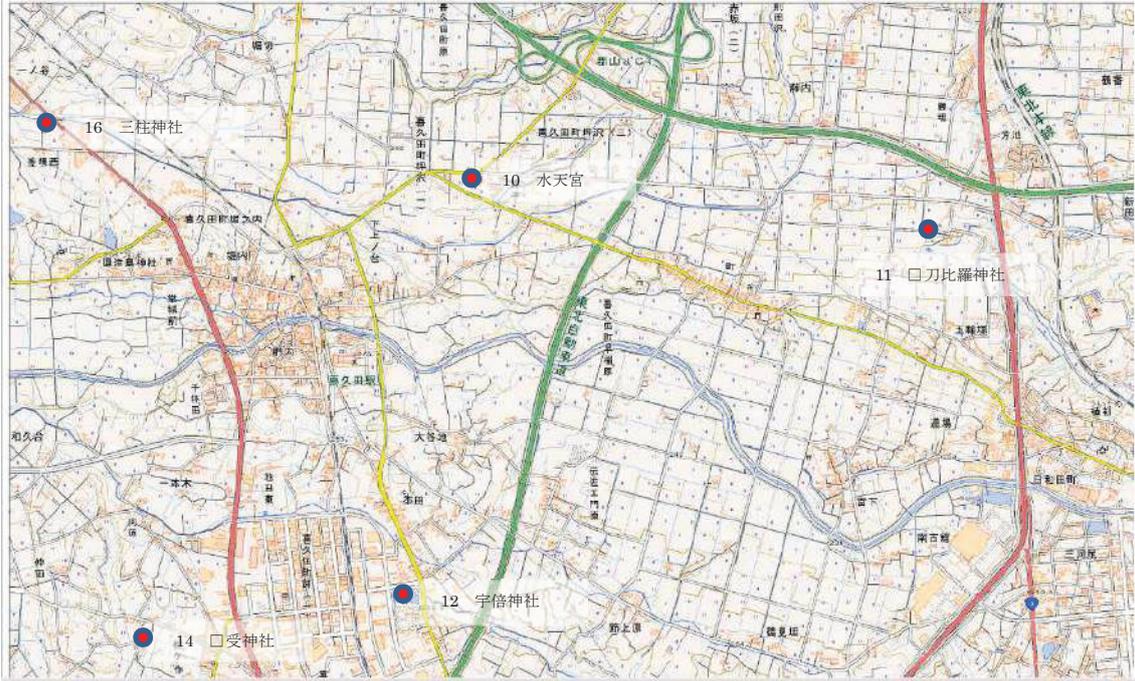
②



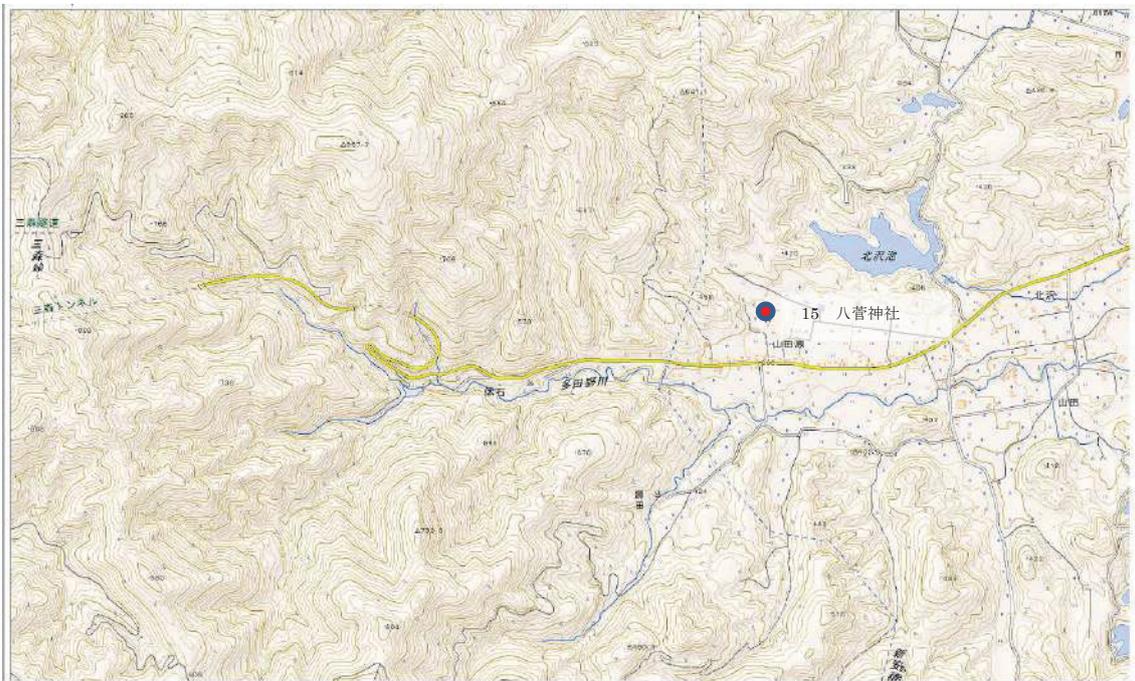
③



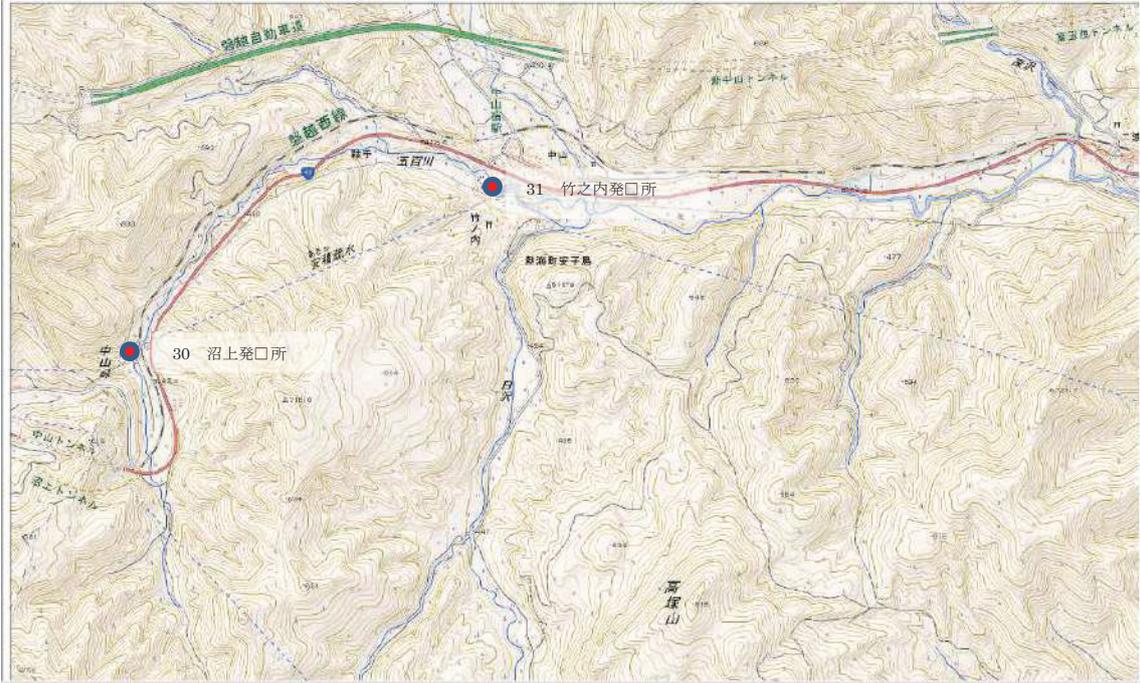
④



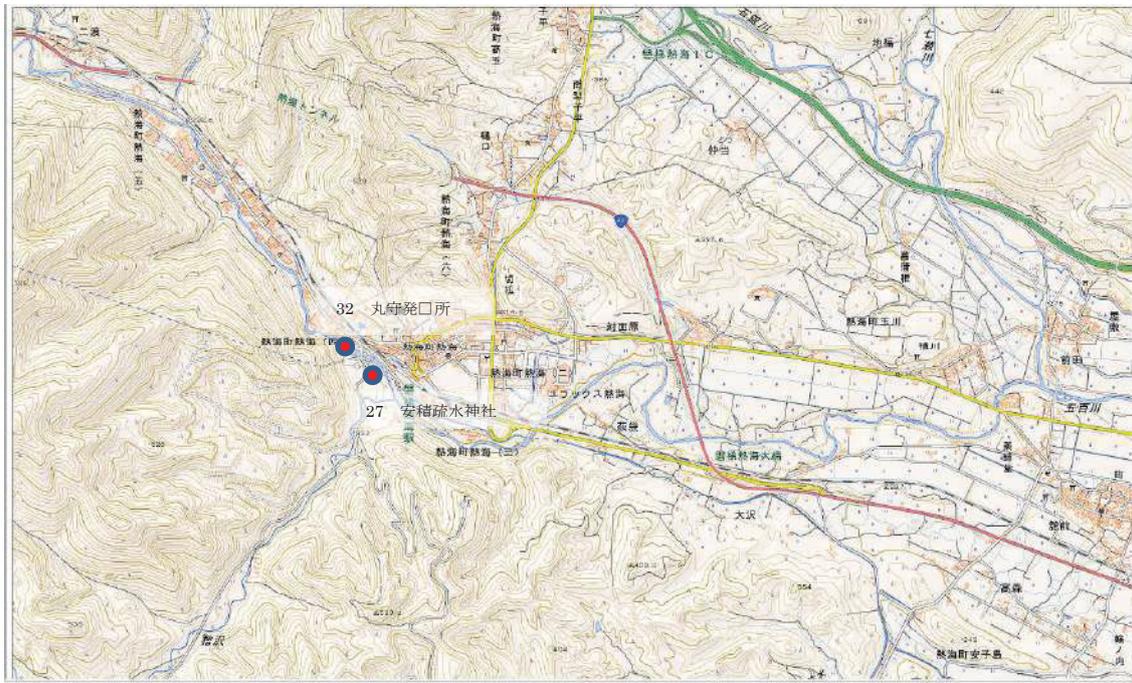
⑤



⑥



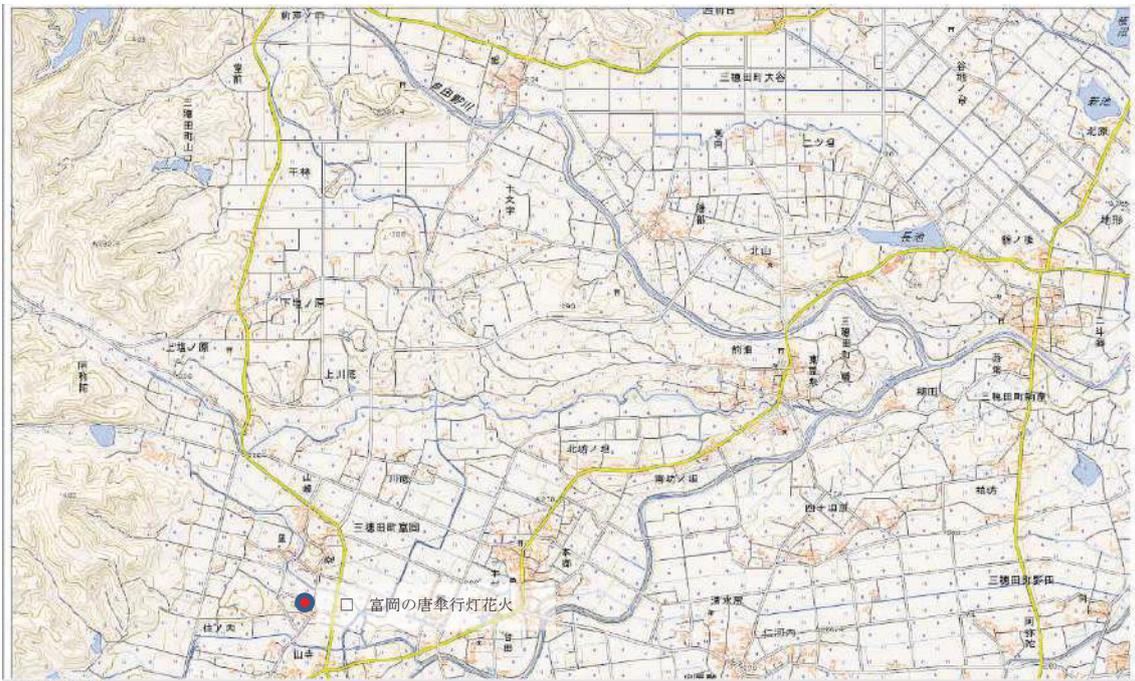
⑦



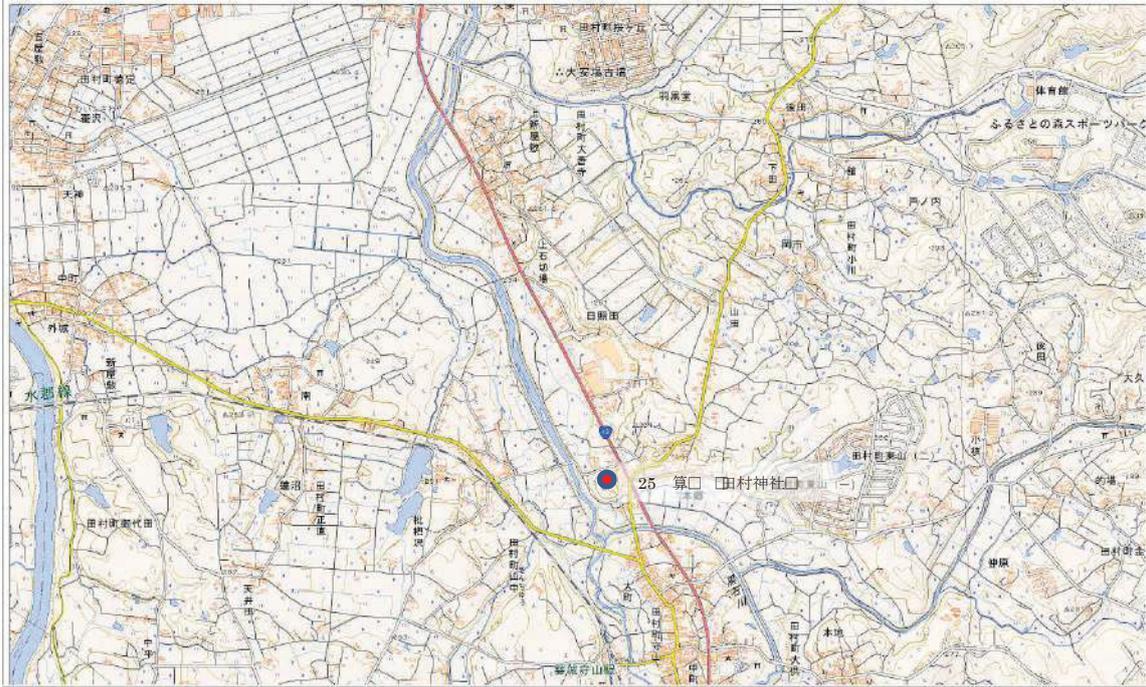
⑧



⑨



⑩



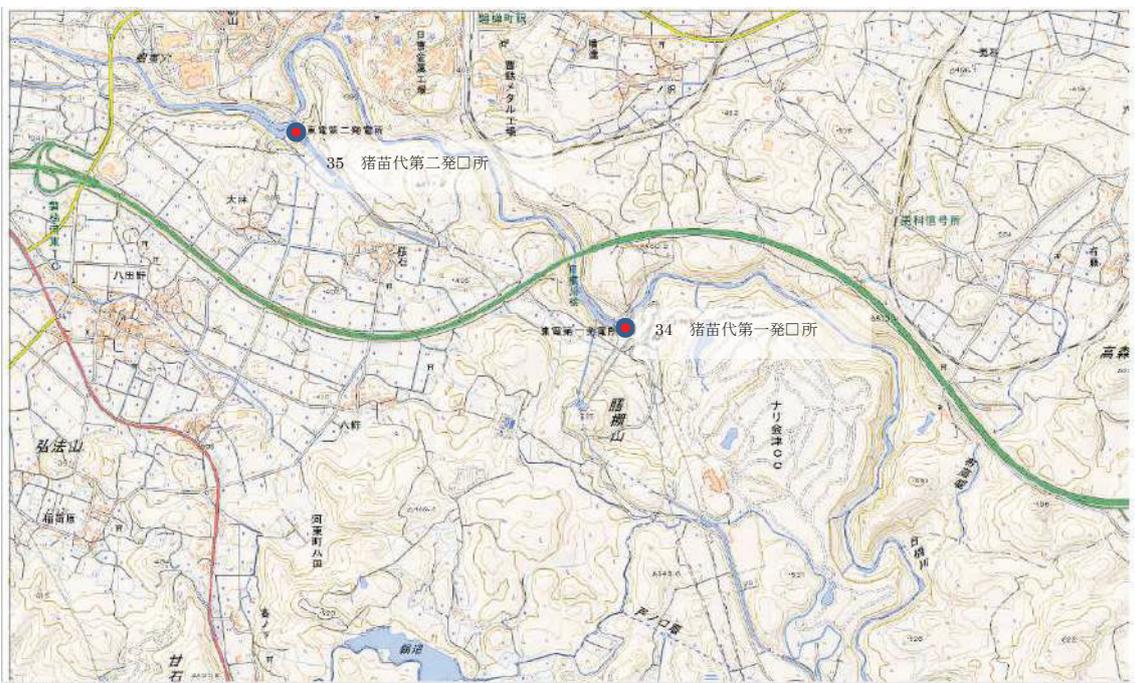
⑪



⑫



⑬



※複数ページにわたっても可

ストーリー

【安積原野へは流れない、あこがれの湖】

郡山(安積地方)から西の天空(標高514m)にあり、豊富な水を湛え、天を映し出す鏡のような美しい湖、猪苗代湖。郡山には、「猪苗代湖の水を安積原野へ」という疏水開さくの構想が江戸時代から存在していた。枯渴した原野が広がり、人々は水を巡って争い、雨乞いや豊作の思いを込めた花火を打ち上げ、祈りを捧げていた。しかし、猪苗代湖の水は西側へのみ流れ、奥羽山脈がそびえる東側の安積原野には流れなかった。加えて水利の問題があり、疏水開さくは夢物語であった。



猪苗代湖

【大久保利通、安積の地に“夢”を見る】

明治維新という近代化へのかつてない改革があった日本。明治4年(1871)、岩倉使節団は近代化を推進するため、欧米諸国を約1年10か月かけて視察した。そして欧米の発展を目の当たりにし、国力の差に圧倒させられる。彼らは、経済力と軍事力を備えるため「富国強兵」をスローガンとし、新産業の育成を目指す「殖産興業」の進展が急務と痛感した。この使節団に、安積原野の開拓を大きく左右する後の福島県令・安場保和と、内務卿・大久保利通が参加していた。彼らは、開拓と産業振興が発展の源であると確信を得る。そして、安場はひと足先に帰国し、さっそく福島県の開拓に着手した。

明治6年(1873)、福島県の開拓に呼応した地元富商たちは、「開成社」を結成し、本格的な開拓に乗り出した。灌漑用の沼の整備や葡萄など海外果樹の植樹、西洋農具を用いた斬新で近代的な西洋農法を導入した開拓地は、収穫量や人口の増加により、新村が誕生するまでに至る。一方では、開拓事務所が置かれた「開成館」は西洋風の建物を地元の大工たちが錦絵等をもとに、見よう見まねで作ったその象徴的な建物であった。また、開成社員は洋服を身にまとい、積極的に西洋文化を取り入れつつ開拓を進めた。ここに、慣習にとらわれず、新たなものを受け入れ調和する進取の気質があったことが感じられる。



洋服を着た開成社員

明治9年(1876)、明治天皇の東北巡幸の下見に来た内務卿・大久保は、福島県と開成社が進めてきたこの官民一体の開拓事業の成功に感激する。大久保は、「殖産興業」と改革で困窮した武士を救う「士族授産」を結び付けた全国的なモデル事業を、他の候補地に先駆け、広大な原野を有する安積の地で実施することを決断した。この地には、東西南北に通じる交通の要衝、豊富な水を湛える猪苗代湖、そして進取の気質を持った開拓者が存在していたからである。こうして大久保は、明治11年(1878)3月に事業案を提出し、政府は予算を計上した。しかし、事業開始目前、大久保は暗殺されてしまったのだ。彼は亡くなる直前まで当時の福島県令と会い、開拓にかける想いを熱く語っていたという。

この大久保の“夢”は、開拓者やその想いを知る人々によって、明治政府初の国営農業水利事業「安積開拓・安積疏水開さく事業」として実現されていくのである。

この大久保の“夢”は、開拓者やその想いを知る人々によって、明治政府初の国営農業水利事業「安積開拓・安積疏水開さく事業」として実現されていくのである。

【新たな挑戦、そびえる山脈と時代を切り拓く】

明治11年11月の九州・久留米藩を皮切りに、主に全国9藩から旧士族と、その家族約2,000人が刀を捨て、原野を開拓しようとして入植してきた。入植者たちは、困難が予想される新たな土地での心の拠り所として、故郷の神社などからの分霊を受け、力を合わせ開拓に臨んだ。特に、人心融和のため伊勢神宮から当時唯一の御分霊を許された「開成山大神宮」は、人々の心の拠り所となっていたのであった。

明治12年(1879)、この大神宮で、かつてない大工事の安全と成功を祈願する起工式は行われた。始めに着手したのは、安積疏水成功のカギを握り、会津盆地と安積原野の水の流れを調整する「十六橋



当時の十六橋水門

「水門」の建設であった。革新的だったのは、オランダ人技師ファン・ドールンの監修のもと、近代土木技術を我が国で初めて疏水の設計に導入したことである。当時最先端の機器が用いられ、実測データに基づき科学的に検討するという従来の経験主義を脱却した草分け的な設計であった。この検証により、安積原野へ水を流しても、西側へ流れる水量は減らないことが実証され、水利という長年の大きな課題を解決に導いた。

また、猪苗代湖の氾濫に苦しんでいた湖岸の住人達は、十六橋水門が治水の役割も持つことを知り、遠く離れた地からボランティアとしてこの工事に参加した。その人数は500人以上にのぼり、この大工事を1年程で完成させた。水路工事の最大の難関は、奥羽山脈に全長585mのトンネルを掘り、安積原野まで水を一気に流すことであった。硬い岩石を砕くダイナマイト、地下水を外に汲み出す蒸気ポンプ、補強のためのセメントなど、外国の最新技術が使われていった。また、鹿児島、大分、東京、横浜、岩手、新潟など全国から多くの技術者たちが集ってきた。開拓者たちの安積原野と猪苗代湖を繋ぐ挑戦は、疏水通水へと結実し、後の那須疏水と琵琶湖疏水の建設に大きな影響を与えたのである。

【潤いと発展をもたらした猪苗代湖、“夢”の礎となった風土】

明治15年(1882)、約3年で、延べ85万人の労力と当時の年間国家土木予算の約1/3相当を要した水路52.1km、分水路78kmの安積疏水は完成した。その通水式には政府要人らをはじめ数万人が集い、事業の成功を祝った。

安積疏水は大地を潤し、約4,000haだった米の作付面積は、最大時に10,000ha以上へと広がった。収穫量は約4,500tから10倍以上へと大幅に増え、実り多き大地へと生まれ変わっていった。また、清らかな水が一年中流れるようになり、鯉の養殖が盛んになった。それぞれ生産量が全国市町村で1位になるほど、食文化を豊かにしている。



安積疏水の完成を祝って造られた麓山の飛瀑

明治後期からは、疏水の落差を発電にも活かすため、当時の最高技術を結集し、「沼上発電所」が建設された。そこから、23kmも遠く離れた郡山に11,000vの高压電力を送るという、我が国初の長距離高压送電を成功させ、日本中を驚かせた。この電力は製糸、紡績など郡山の産業を発展させていった。その後、十六橋水門を活用し、猪苗代湖の西側に建設された新たな発電所から関東への送電は、当時世界第三位の長距離送電と謳われ、近代日本を支えた。そして、開拓により人が集い、将来の叡智を育むための学校が作られ、やがて銀行の設立や鉄道の開通にも結び付いていった。

「安積開拓・安積疏水開さく事業」は、交通の要衝、全国と世界から人、モノ、技術、更には文化等の多様性を受け入れ、調和し、共に生きるという、この地の風土が大きく活かされ、成し遂げられた。それらは、農業・工業・商業の飛躍的な発展を通じて今も受け継がれており、日本の近代化を実現するため、この事業への熱い想いを語っていた、大久保利通の“最期の夢”を叶える礎になったのである。

【開拓者たちの想い、未来に花咲く】

全国から集った入植者や技術者、政府、そして安積の地に生きた人々が、ともに切り拓いた安積開拓。かつて、福島県と開成社が開拓を進めていた折、灌漑用の沼の堤に、約3,900本の桜を植えた。現在でも、開拓の歴史を見守ってきたソメイヨシノの老木は、春になると開成山公園の土手一帯を覆い尽くす。



桜が満開の開成山公園

開成社の社則に、「私たちの代では小さな苗木でも、やがて大樹となり、美しい花は人々の心を和ませるであろう」との想いが込められた一文がある。この未来を想う心が、新しい時代を拓いたといっても過言ではなく、その想いは今なおこの地に息づいている。

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	猪苗代湖 いなわしろこ	未指定	猪苗代湖の水の恩恵を受けるべく、安積開拓・安積疏水開さく事業が行われた。標高が514mと高い位置にあるため、自然落差を利用し、農業用水や生活用水が供給された。また、水力発電の発展にも貢献し、近代化への礎を築いた。	郡山市 猪苗代町
2	富岡の唐傘行灯花火 とみおか からかさあんどんはなび	市無形	明治初期から始まった花火で、雨乞い、豊作、家内安全を祈願するもの。閉じられた傘が開き、光が雨のように降り注ぐという全国でも珍しい花火である。	郡山市
3	安積開拓発祥の地 あさかいたくはつしょうち	市史跡	福島県開拓掛が設置された施設「開成館」や開拓の入植者の住宅があり、近代郡山の発展の礎となった安積開拓・安積疏水開さく事業の中心地。	郡山市
4	安積開拓官舎 —旧立岩一郎邸—	市重文 (建造物)	安積開拓時に設置された「福島県開拓掛」の職員用官舎。明治天皇の御巡幸の際には、政府高官の宿泊所にもあてられた。	郡山市
5	開成館 かいせいかん	県重文 (建造物) (近代化産業 遺産)	安積開拓時の郡役所で、ここに福島県開拓掛が設置された。地元の大工が錦絵や建物の見聞を通じて得た情報で、見よう見まねで建設された「擬洋風建築」。後に県立農学校にも使用され、明治天皇の2回にわたった東北御巡幸の際には、行在所(宿泊所)や休憩所にもなった。	郡山市
6	金透記念館 きんとうきねんかん	未指定	開成館と同じ「擬洋風建築」で建設された小学校。明治9年(1876年)の明治天皇東北御巡幸の際には、休憩所として使用された。随行した木戸孝允が「金透学校」と命名し、木戸の日記に	郡山市

			は、開成館や西洋農法が導入された開拓地とともに、驚きをもってその様子が記されている。現在の建物は、復元されたもの。	
7	五十鈴湖 いすずこ	未指定	開成山地域の開拓が行われた際に、灌漑用の池として造成された。伊勢神宮の御分霊を受けた開成山大神宮の前にある池であったため、伊勢神宮の前を流れる「五十鈴川」にちなんで命名されたという。	郡山市
8	大久保神社	未指定	安積疏水の開通に尽力した大久保利通を称えて建立された神社。神社となっているが、実際には鳥居や社殿はなく、顕彰碑が存在している。	郡山市
9	久留米水天宮 くろめすいでんぐう	未指定	久留米藩からの入植者のために、故郷の水天宮の御分霊を奉遷した神社。建築費寄附名簿には、三条実美、伊藤博文、大隈重信、松方正義、岩倉具視など、当時の政府高官の名が並んでいる。	郡山市
10	水天宮	未指定	水天宮の御分霊を奉遷したもう1つの神社で、喜久田町に存在している。久留米の開墾地は南北に分かれ、この水天宮は北に位置している。当時は子ども遊び場や、疏水の水盤屯所に使用されており、開拓者の憩いの場所になっていた。	郡山市
11	金刀比羅神社 ことひら	未指定	久留米藩からの入植者が祀った神社で、当時久留米から長い船旅を経て、安積開拓の地に到着したことから、船の神を祀っているとされている。	郡山市
12	宇倍神社 うじ	未指定	鳥取藩からの入植者のために、故郷の宇倍神社の御分霊を奉遷した神社。当時氏子の資格要件が厳しく、移住士族とその分家だけが氏子となり、一般入植者や小作人たちは氏子になれなかったといわれている。	郡山市

13	安積開拓入植者住宅 —旧坪内家—	未指定	安積開拓のため、鳥取藩の入植者が結成した「鳥取開墾社」の副頭取の住宅。明治政府が入植者の住宅用補助金を交付し建築された5つのランクの住宅の中でも最上級の設計による建物。	郡山市
14	豊受神社	未指定	土佐藩の入植者のうち、西原に入植した者が祀った神社。はじめは伊勢神宮の遥拝所を設けていた。ここに移住した人達のほとんどが神葬祭で仏葬はあまりないといわれており、付近の地域には見られない習慣がある。	郡山市
15	八菅神社	未指定	土佐藩からの入植者が崇めた菅原道真と、地元の農家が祀っていた八幡太郎を合祀し、八幡と菅原の1字ずつとってできたといわれる神社。異郷に移って生活の喜びや娯楽に乏しかった入植者たちにとっては、神社の祭礼は唯一の楽しみとなっていた。	郡山市
16	三柱神社	未指定	主に棚倉藩からの入植者が建立した神社で、「お互いの心を統一し、団結を強固にする」ために、開墾にあたり神の御加護を祈ったものであるとされる。	郡山市
17	三嶋神社	未指定	松山藩からの入植者のために、故郷の三嶋神社の御分霊を奉遷した神社。移住者の大半が小作人となったため、境内も狭く社殿もなかったといわれる。	郡山市
18	安積開拓入植者住宅 —旧小山家—	市重文 (建造物)	安積開拓のため、松山藩の入植者が結成した「愛媛松山開墾」の18戸の中で唯一現存する住宅として復元・保存されている。当時の松山の一般的な民家は、「四間×六間(しろくのみ)」、囲炉裏がなく、炊事場も屋外だったといわれ、それが色濃く残っている。	郡山市
19	開成山大神宮	未指定	安積開拓に従事した人々の心の拠り所として設置された神社。伊勢神宮からの御分霊を祀っており、「東北のお伊勢さま」と呼ばれている。	郡山市

20	太刀 勝光 たち かつみつ	市重文 (工芸品)	伊勢神宮からの御分霊を受けた際に、御神宝として贈られた太刀。備前国長船に住んでいた、室町時代の刀匠勝光の作である。	郡山市
21	槍 銘 国綱 やり めい くにつな	市重文 (工芸品)	太刀 勝光とともに、伊勢神宮からの御分霊を受けた際に、御神宝として贈られた槍。安土桃山時代の作といわれている。	郡山市
22	十六橋水門 じゅうろっきょうすいもん	未指定 (近代化産業遺産)	安積原野へ水を流すために、猪苗代湖の水位を調整する水門。安積疏水工事で一番初めに工事が始まった。当時は16の石造のアーチでできており、日本では長大な水門であった。安積開拓・安積疏水開さく事業のシンボリックな建造物で、大正期には日本の工業化を進めるべく東京へ送電を目的として建設された猪苗代第一発電所に併せて、大規模な改修が行われた。弘法大師が16の塚を築いて通行できるようにして、村人の不便を救ったとの逸話もある。	猪苗代町
23	トランシット	未指定	安積疏水工事の測量で使用されたフランス製の測量機器。当時は約664円(現在の約2,600万円)という大変高価なもので、水平角と鉛直角を精密に測定した。西を示すコンパスの針が「W」ではなく、「O」となっているのが昔ならではの珍しい特徴。	郡山市
24	レベル	未指定	安積疏水工事の測量で使用されたイギリス製の測量機器。高低差を精密に測量した。	郡山市
25	算額 (田村神社) さんがく (たむらじんじゃ)	市有形	日本古来の和算は、西洋数学の採用により廃止されてしまったが、郡山の和算家は、安積開拓や安積疏水の土地測量・水量計算に大活躍したといわれている。和算の水準と研究者の分布を知ることができる学術上も貴重な文化財である。	郡山市
26	算額 (稲荷神社) さんがく (いなげじんじゃ)			

27	安積疏水神社 あさかそすいじんじや	未指定	安積疏水の守護神とされ、当時の工事作業員が、現地に向かう際に必ず立ち寄り、その日の安全を祈ったとされる。	郡山市
28	麓山公園 はやまこうえん	未指定	明治 15 年（1882 年）に安積疏水の通水を盛大に祝った公園。当時、園内には数百ものちょうちんが掲げられ、山車を備えた歌舞伎の催しや、花火の打上げなどにより、数万人の人が集まり未曾有の賑わいをみせたとされる。	郡山市
29	安積疏水麓山の飛瀑 あさかそすいはやまひびく	国登録	明治 15 年（1882 年）に郡山の開成社等の有志が安積疏水の通水を記念して麓山公園の一角に築いた滝。安積疏水事業の記念碑的建造物で、当時の安積疏水の最終地点の一つ。当時右大臣だった岩倉具視が『農業用の施設を鑑賞用に使うとは何事か』とこの滝を見て激怒したが、実は勘違いで製糸業の動力源として利用するためのものだったという逸話もある。	郡山市
30	沼上発電所 ぬまがみ	未指定 (近代化産業遺産)	明治 32 年（1899 年）に、猪苗代湖と安積疏水の落差を利用して運転を開始した水力発電所。建設には「電気化学工業の父」と称された野口 遵 <small>したかう</small> が技師長として携わった。日本初の高圧電力の長距離送電により、郡山市の紡績や繊維産業の発展に大きく貢献した。	郡山市
31	竹之内発電所 たけのうち	未指定 (近代化産業遺産)	沼上発電所と同様、猪苗代湖と安積疏水の落差を利用して造られた水力発電所。人口増加による家庭への電力供給を増やすため、大正 8 年（1919 年）に運転を開始した。	郡山市
32	丸守発電所 まるもり	未指定 (近代化産業遺産)	沼上、竹之内発電所と同様に造られた水力発電所。大正 10 年（1921 年）に運転を開始し、竹之内発電所と同様に人口増加による家庭への電力供給を増やすことを目的とした。	郡山市
33	旧福島県尋常中学校本館	国重文 (建造物)	明治 22 年（1889 年）に福島県尋常中	郡山市

		(近代化産業遺産)	学校として完成。当時桑野村は開拓事業により急速に発展しており、また、農民による土地の寄附や無償労力奉仕の申し出なども後押しし、この地に建てられたと言われている。当時の県下では最も進んだ洋風建築であり、創建された場所に当時の面影を残したまま現存している日本でも貴重な学校建築物である。	
34	猪苗代第一発電所 いなわしろ	未指定	大正 3 年 (1914 年) に運用開始となった水力発電所で、初の 115kV 送電が行われたことにより、当時の日本の中心を支えていた。運用開始時の出力 37,500kW は、当時東洋一の規模を誇っていた。建物は東京駅や日本銀行本店などを手掛けた辰野金吾が設計している。	会津若松市 【所有者】 東京電力株式会社
35	猪苗代第二発電所 いなわしろ	未指定	大正 7 年 (1918 年) に運用開始となった水力発電所で、猪苗代第一発電所と同様、ここからの送電によって、当時の日本の中心を支えていた。赤レンガの外壁が特徴的で、建物は「猪苗代第一発電所」と同様に辰野金吾が監修している。	会津若松市 【所有者】 東京電力株式会社
36	郡山市公会堂 こおりやましこうかいどう	国登録	大正 13 年 (1924) 市制施行を記念し建造された。国会議事堂を設計した矢橋賢吉が監修を行い、オランダ・ハーグの平和宮などを参考に設計されたと伝わる。ネオ・ルネサンス様式を基調とするモダンな外観には、開拓の意気込みが壮麗に表現され、「進取の気質」を感じ取れる建造物。郡山の飛躍的発展の象徴でもある。	郡山市
37	開成山の桜 かいせいざん	未指定	開拓用の池の堤を強化するために植樹され、開成社の社則に、花木の植樹を定めていたことが今へとつながっている。今でも約 1,300 本の桜が咲き乱れる県内でも有数の桜の名所。元国	郡山市

			指定の名勝及び天然記念物でもあった。	
38	かいせいさんこうえん 開成山公園	未指定	開成社が開拓用に造った池があった公園。開成社の社則に定めた花木の植樹が生んだ桜の名所を有しており、郡山のシンボルの場所。	郡山市

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財の写真一覧

1 猪苗代湖



4 安積開拓官舎―旧立岩一郎邸



2 富岡の唐傘行灯花火



5 開成館



3 安積開拓発祥の地



6 金透記念館



7 五十鈴湖



10 水天宮



8 大久保神社



11 金刀比羅神社



9 久留米水天宮



12 宇倍神社



13 安積開拓入植者住宅—旧坪内家



16 三柱神社



14 豊受神社



17 三嶋神社



15 八菅神社



18 安積開拓入植者住宅—旧小山家



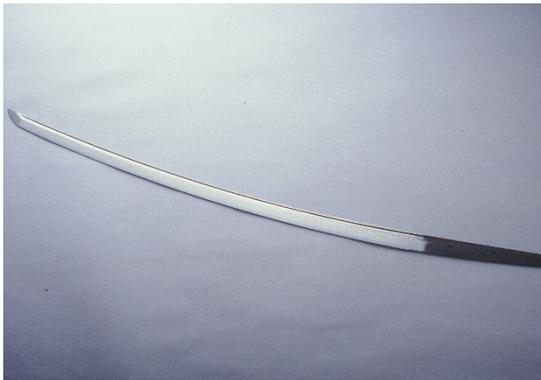
19 開成山大神宮



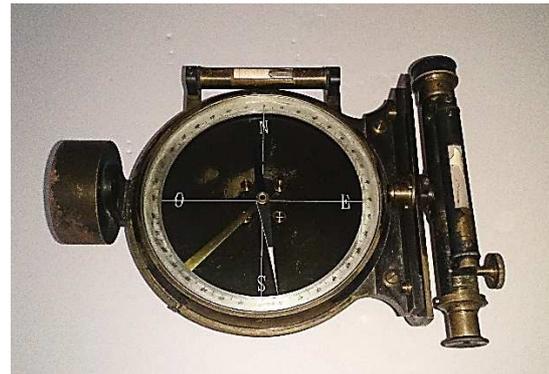
22 十六橋水門



20 太刀 勝光



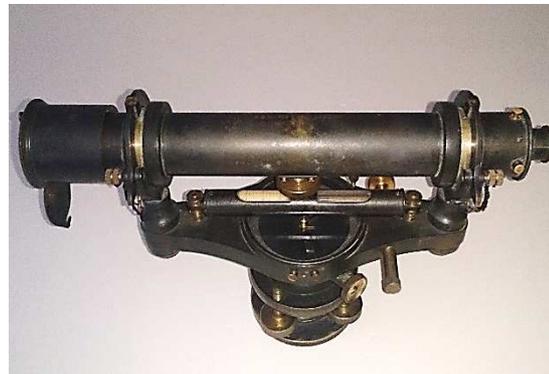
23 トランシット



21 槍 銘 国綱



24 レベル



25 算額 (田村神社)



28 麓山公園



26 算額 (稲荷神社)



29 安積疏水麓山の飛瀑



27 安積疏水神社



30 沼上発電所



31 竹之内発電所



34 猪苗代第一発電所



32 丸守発電所



35 猪苗代第二発電所



33 旧福島県尋常中学校本館



36 郡山市公会堂



37 開成山の桜



38 開成山公園



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
22	未来を拓いた「一本の水路」－大久保利通“最期の夢”と開拓者の軌跡 郡山・猪苗代－

(1) 将来像 (ビジョン)

この日本遺産は、明治時代において当時の最先端技術と官民連携、そして大久保利通を始めとした多くの人々の知恵と努力により猪苗代湖から安積平野へ一本の水路を通じたことで、農業、工業、商業においてこの地域が飛躍的な発展を遂げたストーリーが認定された、謂わば地域の発展の礎であり、地域の近現代史を語る上での根幹を成すものである。

今後のビジョンとしては、先進的な取り組みを行っている民間事業者を核に、認定ストーリーや構成文化財、関連資源などを活用した「稼げる日本遺産」を目指し、国内誘客、ひいては今後の積極的なインバウンド誘致を見据えた「観光まちづくり」に取り組む。このことは、郡山市の最上位指針である「あすまちこおりやま」でも、本市の地域資源である日本遺産を活用した積極的なインバウンド観光への対応を推進し、民間資金・民間活力を活用した「観光まちづくり」に取り組む、としている。

また、地域内部に対しては認定ストーリーを地域のアイデンティティとしてより深く浸透させ、シビックプライドの醸成を図りながら各種事業を推進する。

推進体制は、日本遺産による観光誘客を推進するために協議会事務局を郡山市観光政策課に移管したことから、より積極的に日本遺産を活かした観光戦略立案などの施策を実行できる体制となったことに加え、文化スポーツ観光部となったことにより、伝統芸能や音楽などの文化芸術との交流や、プロスポーツチーム3つのホームタウンであることを活かした観光誘客推進への取り組みを充実させる。また、自立・自走を目指したDMOや民間事業者等への具体的な権限委譲のタイムスケジュールを可視化して示せるものとする。さらに、意欲的な住民や民間事業者の活躍の場を設けるとともに、日本遺産認定を機に顕在化した、地域住民や民間事業者が中心となって実施している普及啓発等の取り組みについて、協議会が支援し地域内外の関係者を取り込むことでネットワーク化を図り、地域全体で来訪者の受け皿を構成する。

事業展開の方向性としては、「日本遺産を知る」「日本遺産に触れる」「日本遺産でもてなす」をキーワードとし、明治時代をけん引した「安積開拓・安積疏水開さく事業」達成のカギとなった「挑戦」「多様性」「共生」をキーワードに関連事業を展開し、独自性をとらえた魅力の発信や、それに伴うまちの活性化につなげる。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①-A：ボランティアガイドの案内件数（件）

年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	78	80	74			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	75	76	77	78	79	80
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	【設定方法】 直近実績を基点に、毎年1件を加算。 【把握方法】 各ボランティア団体への照会					

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①-B：アフターコンベンション等現地視察としての活用数（件）						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	1	2	3			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	4	5	6	7	8	9
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	【設定方法】 2024年を基点に、毎年1件を加算。 【把握方法】 コンベンションビューローへの調査、及び協議会への相談件数					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②-A：日本遺産ストーリーの認知度（％）						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	67.5	66.4	71.9			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	—	—	—	—	—	—
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	【設定方法】 直近実績を基点に、毎年0.5%を加算。 【把握方法】 まちづくりネットモニター（郡山市広聴広報課） ※2025年より指標を②-Cに変更する。					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－B：地域に愛着を持ち、住みたいと思う住民の割合（％）※住みたいのみ						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	56.9	58.7	57.9			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	—	—	—	—	—	—
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		【設定方法】直近実績を基点に、毎年2％を加算。 【把握方法】市民意見レーダー（郡山市広聴広報課） ※2025年より指標を②－Dに変更する。				

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－C：安積開拓・安積疏水の認知度（％）						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	88.9	87.2	88.4			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	88.9	89.4	89.9	90.4	90.9	91.4
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		【設定方法】直近実績を基点に、毎年0.5％を加算。 【把握方法】まちづくりネットモニター（郡山市広聴広報課）				

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－D：地域に愛着を持ち、住みたいと思う住民の割合（％）※住みたい ＋市内の別の地域に住みたい						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	67.1	67.2	67.3			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	67.4	67.5	67.6	67.7	67.8	67.9

指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	【設定方法】直近実績を基点に、毎年0.1%を加算。 【把握方法】市民意見レーダー（郡山市広聴広報課）
---------------------	---

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：一本の水路ブランド認証製品の受託販売額（円）						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	524,860	933,896	853,990			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	793,700	833,385	875,054	918,807	964,747	1,012,985
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	【設定方法】実績の平均を基点に、毎年0.5%を加算。 【把握方法】協議会でイベント等に出展した際の実績					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－B：構成文化財（安積歴史博物館、開成館）の年間入館料（円）						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	0	74,800	180,900			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	198,990	218,889	240,778	264,856	291,341	320,475
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	【設定方法】直近実績を基点に、毎年1%を加算。 【把握方法】各施設への照会（安積歴史博物館は2021年2月・2022年3月の福島県沖地震により休館中、開成館は2021年2月の福島県沖地震の影響により休館中、2023年10月より一部再開。）					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：日本遺産ストーリーに関係する構成文化財の活用数（箇所）						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	11	11	11			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030

数値	—	—	—	—	—	—
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>【設定方法】過去開催実績のある施設数を基点に、毎年1件を加算。</p> <p>【把握方法】施設管理者への調査、及び協議会への相談件数</p> <p>※2025年より指標を④-Bに変更する。</p>					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④-B：日本遺産ストーリーに関係する構成文化財の活用件数						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	709	778	526			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	579	636	700	770	847	932
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>【設定方法】過去開催実績のある施設でのイベント等開催件数を基点に、毎年1%を加算。</p> <p>【把握方法】施設管理者への調査、及び協議会への相談件数</p>					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④-C：郡山市公共施設等総合管理基金の額（千円）						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	855,671	3,098,973	6,527,473			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	6,853,847	7,196,539	7,556,366	7,934,184	8,330,893	8,747,438
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>【設定方法】直近実績を基点に、毎年1%を加算。</p> <p>【把握方法】郡山市公有資産マネジメント課への照会（令和5年度設末に文化施設整備基金を含む施設整備に関連する4基金を統合）</p>					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④-D：一本の水路プロモーション協議会への寄附額（千円）						
年度	実績					
	2022	2023	2024			

数値	—	80,100	95,100			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	99,855	104,848	110,090	115,595	121,374	127,443
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	【設定方法】直近実績を基点に、毎年0.5%を加算。 【把握方法】協議会で受納した実績					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：郡山市及び猪苗代町の観光客入込客数（人）						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	5,260,989	6,018,440	6,290,775			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	6,605,314	6,935,579	7,282,358	7,646,476	8,028,800	8,430,240
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	【設定方法】直近実績を基点に、毎年0.5%を加算。 【把握方法】福島県観光客入込客数状況調査（福島県観光交流課）					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－B：郡山市及び猪苗代町のインバウンド宿泊数（人）						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	5,338	35,493	50,550			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	53,078	55,731	58,518	61,444	64,516	67,742
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	【設定方法】直近実績を基点に、毎年0.5%を加算。 【把握方法】インバウンド宿泊数調査（郡山市観光政策課）					

(3) 地域活性化のための取組の概要

①「日本遺産を知る」

郡山市・猪苗代町の地域の特徴として次の三点が挙げられる。一つ目は、郡山市は「交通の要衝」であり、大型コンベンションが数多く開催され、ビジネス客が多数訪れている点。二つ目は、猪苗代湖や国立公園等、豊富な自然を活用した体験型アクティビティが充実しており、修学旅行や林間学校、スキー教室など県内外から教育旅行先として人気がある点。三つ目は、国際連合工業開発機関（UNIDO）や国際協力機構（JICA）が発展途上国の環境改善に生かすことができる、安積開拓・安積疏水の歴史や今もこの地に息づく灌漑技術がある点である。

これら三つの地域特性に加え、認定ストーリーについて地域を学ぶ素材としての可能性を見出し、今後見込まれる教育旅行需要へのツールとしてガイドブックの制作を行ってきたが、教育関係者、ひいては他県の多くの学生・生徒に対しこれらを活用した営業活動を本格的に開始・継続すること、また、来訪者に必要な情報を届けるため、地元報道機関と連携した情報発信や、コンベンション参加者に対して周遊ルートが掲載されたガイドブックの配付などを継続して行うことで、この地を訪れる人、潜在的に訪れる可能性がある人に対し、認定ストーリーを知ってもらう機会を創出する。

②「日本遺産に触れる」

全長 360km 以上に及ぶ安積疏水の流入地域では、人々の暮らしに根付く形で、日本遺産ストーリーを構成する用水施設や神社、公園、発電所等の関連施設や、その恩恵を受け発展した産業施設等が広範囲に位置している

これらの地理的背景を踏まえ、現在の発展の礎となった日本遺産ストーリーの理解を深めるため、構成文化財や生活に身近な公共・観光施設を活用し、年代やターゲットに合わせて戦略的に実施する啓発事業（マルシェイベント、ロゲイニングやRPGアプリの制作など）の展開により、歴史的観点のみならず様々な切り口から日本遺産ストーリーに触れる機会を創出するとともに、地域内外のさらなる認知度向上やシビックプライド醸成につなげる。

③「日本遺産でもてなす」

日本遺産認定以後、関連イベントや事業は、主に協議会及び行政機関が中心となって進めてきたが、その一方で、「一本の水路ブランド認証事業」などを通して、産品を制作し認定ストーリーを普及啓発する者やボランティアガイドとして来訪者に認定ストーリーを含む地域の歴史や文化を伝える者など、意欲的な個人や団体などの活動が定着化し、地域プレイヤー同士が繋がりを築き、販促や活動を積極的に行ってきた。

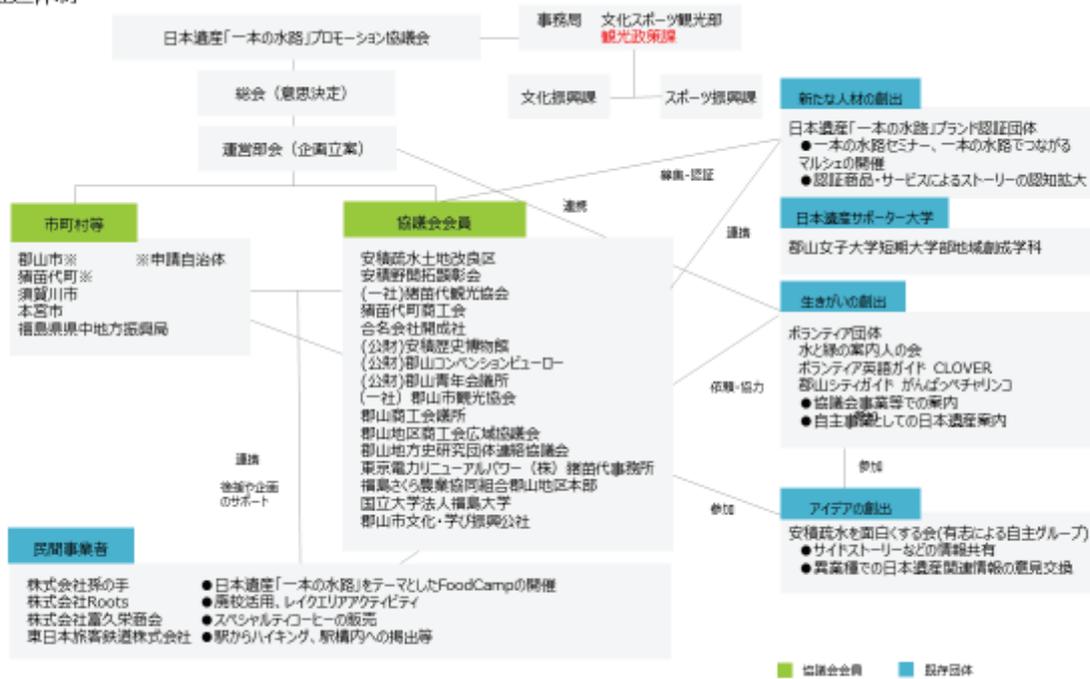
今後は、協議会や一本の水路ブランド認証団体といった既存のネットワークをベースとしつつも、それぞれの立場ごとに「日本遺産でもてなす」意識を醸成させ、自発的な民間主導の取り組みをより効果的・効率的に支援できる組織となるよう、役割の明確化を行うために、テーマ別のワーキンググループ（①国内誘客、②インバウンド誘致、③自立・自走）を設け、組織のリデザインを具体的に運営部会に提案する。ワーキンググループには、地元の報道機関や外部コンサルタント、会計事務所のほか、これまでの実績から得た知見

を還元できるようにブランド認証団体やボランティア団体、自主的に日本遺産をテーマにした事業を実施してきた民間事業者など内外の幅広い層に参加してもらう。

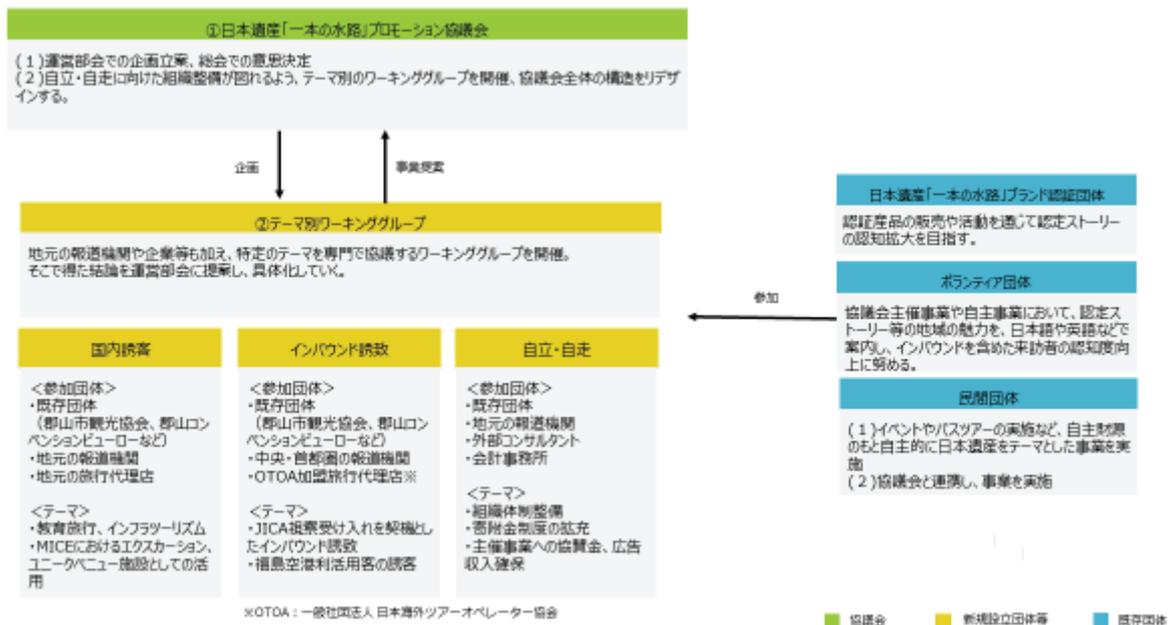
また、地域プレイヤーなどによる認定ストーリーを活用した取組実施の機運をさらに高めるため、ボランティアの育成のほか、地域プロデューサーへの権限委譲も想定して自立・自走のための安定した収入確保に励む。

(4) 実施体制

組織図・推進体制



実施体制



[人材育成・確保の方針]

- ・日本遺産関連事業を通し、意欲的な住民や民間事業者の活躍の場を設けることで、新たなプレイヤーを発掘する。
- ・上記（４）実施体制を基に、協議会に不足する部分は関連団体と連携することで補い、継続性を担保する。
- ・地元教育機関との連携（小学校や生涯学習関連事業での出前講座、高校・専門学校・大学の総合学習やゼミテーマとして設定 等）により、地域を学ぶ教育として日本遺産ストーリーを活用してもらい、認知度向上とともに関連事業への参画を促す。
- ・日本遺産サポーター大学に第1号として登録された郡山女子大学短期大学部とは、JR 郡山駅をはじめとして民間事業者を巻き込んでの日本遺産PR事業をこれまでも継続して行ってきたが、更なる連携の深化と拡大を図り、より多くのアクターに日本遺産ストーリーの魅力を発信するための活躍の場を与えていく。

（５）日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

一本の水路ブランド認証事業により、民間事業者による日本遺産関連商品が引き続き数多く誕生している。その売り上げにより、地域全体として収益を得る形はとれている。このブランド認証事業についても、DMOや民間事業者等への将来的な事業継承を目指し、タイムスケジュールを可視化する。

2023年度からは、協議会への寄附の仕組みをつくり、着実に収入を増やしているほか、地震により被災した構成文化財の中にはガバメントクラウドファンディングにより修繕費用を捻出しているものもあり、今後も様々な形で収入の確保を図る仕組みづくりに取り組み、持続可能な組織体制の確立を目指す。

また、日本遺産を活用して積極的に活動している民間事業者等の地域プロデューサーには、協議会の活動として事業を実施してもらうよう働きかけ、自発的な動きのとれる民間事業者の集合体としての協議会の組織力強化を図る。特に、ブランド認証団体の中には協議会が進めている教育旅行誘致に向けた動きを先取りしてすでに誘致をおこなっている者もあり、今後は教育旅行誘致に向けたガイドブック制作を着実に進め、協議会全体として教育旅行誘致に向けて取り組んでいく。

（６）構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

・ハード面では、2025年3月にオープンする郡山市歴史情報博物館のアーカイブギャラリーにおいて、日本遺産紹介を含むデジタルコンテンツを整備しており、また郡山市民のシビックプライドの象徴的存在である開成山公園を、「開成山公園 Park-PFI 事業」によりリニューアルし、構成文化財などのスポットを周遊するロゲイニングイベントの実施や、ブランド認証団体が一堂に会してのマルシェイベント「一本の水路でつながるマルシェ」などの事業も公園管理運営者と協力しながら実施したところであり、構成文化財を活用する機会が増えている。この機会を捉え、今後も構成文化財の魅力を十分にPRしながら、文化財自体の魅力を深く認知させることにより興味・関心を促し、シビックプライドの醸成を図るとともに、文化財の積極的な活用や保全活動の促進につなげる。

・施設の安全確保や受け入れ態勢を整備するとともに、インフラツーリズムの普及・啓発による構成文化財への周遊・誘客の促進について、関係機関と調整を図りながら進めていく。

- ・ 開成館、郡山公会堂のガバメントクラウドファンディングを実施したが、構成文化財を幅広く保全していく取り組みをさらに模索し、活用していく。
- ・ 猪苗代湖岸清掃活動やアクティビティの開発により、体験を通して様々な角度から日本遺産ストーリーに触れることで来訪者の関心を高め、寄付や保存活動へつなげる。
- ・ (5) 同様、地域全体の収益の一部を保存活用につなげる仕組みづくりを進める。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	事業を実施・支援する組織の整備		
概要	認定9年間で培った既存の組織形態をベースに、民間の取り組みを支援する組織について、役割を明確化し整備・強化を進める。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産「一本の水路」プロモーション協議会の継続開催	日本遺産認定を機に組織化された当該協議会を継続し、関係団体の意思疎通を図る。	協議会
②	一本の水路セミナーの継続開催	様々な目的を達成するための複合型研修会を令和4年度から開催しているが、今後も継続して開催していく。	協議会
③	日本遺産周年イベントとしての「一本の水路でつながるマルシェ」の開催	久留米市姉妹都市50周年(2025年)、日本遺産認定10周年(2026年)、安積開拓150年などのタイミングで、一本の水路ブランド認証団体のつながりを最大限活用し、郡山市の発展を支え続けた先人の偉業を称え語り継ぐとともに、次の100年を紡ぎ出すための“挑戦”と“つながり(多様性・共生)”の大切さをメッセージとして伝えるため、「一本の水路ブランド認証団体交流会」を発展的解消・進化し「一本の水路でつながるマルシェ」を認証団体と共に開催する。イベントを契機に日本遺産ストーリーの認知や理解を高めるとともに、協議会や文化財施設管理者、史談会等の地元関係団体らが連携し、ネットワーク強化を図る。	協議会、行政施設管理者、民間事業者
④	寄附制度の拡充	日本遺産に興味・関心を抱く個人・団体を対象に寄附を募り、財源を活用した更なる日本遺産PRに繋げるため、2023年より寄附制度を開始したが、さらなる周知に努めるほか、イベント等開催時に参加者が気軽に寄附ができるような募金制度を創設する。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	参加者数に占める民間割合		80.2%
2023			73.8%
2024			97.5%
2025	参加者数に占める民間割合		95.8%
2026	参加者数に占める民間割合		95.9%

2027	参加者数に占める民間割合	96.0%
2028	参加者数に占める民間割合	96.1%
2029	参加者数に占める民間割合	96.2%
2030	参加者数に占める民間割合	96.3%
事業費	2025年度：104千円 2026年度：104千円 2027年度：104千円	
継続に向けた事業設計	会議開催や出席に関して生じる事務費については、日本遺産魅力発信推進を目的に行政から支援を得るが、事業発展や協議会自走に向け、別な財源確保の検討を要する。	
事業費	2028年度：104千円 2029年度：104千円 2030年度：104千円	
継続に向けた事業設計	会議開催や出席に関して生じる事務費については、日本遺産魅力発信推進を目的に行政から支援を得るが、事業発展や協議会自走に向け、別な財源確保の検討を要する。	

(7) - 2 戦略立案

(事業番号2-A)

事業名	新たな戦略立案の共有と連携		
概要	日本遺産ストーリーや構成文化財の可能性から新たな戦略立案を図り、関係者間で共有することで、地域独自のまちづくりを実施する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	各種計画への位置づけ	各種計画に日本遺産の位置づけや関係性を明確化し、関係事業との連携につなげる。	行政
②	テーマ別ワーキンググループによる組織整備に係る戦略立案 ・国内誘客 ・インバウンド誘致 ・自立・自走	テーマ別ワーキンググループにおいて、「国内誘客」「インバウンド誘致」「自立・自走」をテーマに組織のリデザインを具体的に運営部会に提案する。	協議会、ブランド認証団体、ボランティア団体、民間事業者
③	教育旅行等の戦略立案	日本遺産関連施設等への来訪者として、JICA、コンベンション、教育旅行を対象に営業活動を行い、開催のサポートやプレイヤーへの橋渡しにつなげる。	協議会 観光協会
④	関連団体や取り組みと連携した構成文化財等の活用	世界かんがい施設遺産地域活性化推進協議会との連携や次世代エネルギーパークの推進により、構成文化財等を活用した新たな魅力創出や課題解決を図る。	行政
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	協議会等の開催回数		2回
2023			5回
2024			5回
2025	協議会等の開催回数		6回
2026	協議会等の開催回数		6回
2027	協議会等の開催回数		6回
2028	協議会等の開催回数		6回
2029	協議会等の開催回数		6回
2030	協議会等の開催回数		6回
事業費	2025年度：1,800千円 2026年度：1,800千円 2027年度：1,800千円		
継続に向けた事業設計	会議開催や打合せに関して生じる事務費については、日本遺産魅力発信推進を目的に行政から支援を得るが、事業発展や協議会自走に向け、新たな財源確保の検討を要する。		
事業費	2028年度：1,800千円 2029年度：1,800千円 2030年度：1,800千円		

継続に向けた 事業設計	会議開催や打合せに関して生じる事務費については、日本遺産魅力発信推進を目的に行政から支援を得るが、事業発展や協議会自走に向け、新たな財源確保の検討を要する。
----------------	--

(7) - 3 人材育成

(事業番号3-A)

事業名	日本遺産を活用する人材・事業者の確保		
概要	認定9年間で発掘した人材を引き続き支援・育成し、日本遺産を活用した取り組みの機運を高める。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	地域プロデューサーの支援・活用	地域プロデューサーを中心に実施する日本遺産関連事業を支援するとともに、協議会への助言を促す。	協議会
②	ボランティアガイドの育成	研修会の開催によりガイドの担い手増加と知識の深化を図り、ガイドの特性（生涯学習向け、外国人向け等）を生かした活動展開の基礎とするほか、各団体の情報共有の場とする。	協議会
③	はやまっ子 (こどもの語り部の育成、確保)	生涯学習の一環としてこどもの語り部を育成する事業において、日本遺産をテーマとして取り上げ、子ども達の郷土愛醸成と人材育成につなげる。	郡山市中央公民館
④	大学による日本遺産関連ノベルティの制作	地元学生が日本遺産ストーリーを学び、関連するノベルティを制作させることで、日本遺産に対する認知と活動意欲を高める。	行政教育機関
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	ボランティアガイドの案内件数		78
2023			80
2024			74
2025	ボランティアガイドの案内件数		75
2026	ボランティアガイドの案内件数		76
2027	ボランティアガイドの案内件数		77
2028	ボランティアガイドの案内件数		78
2029	ボランティアガイドの案内件数		79
2030	ボランティアガイドの案内件数		80
事業費	2025年度：965千円 2026年度：965千円 2027年度：965千円 内訳：2025年度：③525千円+④440千円 2026年度：③525千円+④440千円 2027年度：③525千円+④440千円		
継続に向けた事業設計	会議開催や出席に関して生じる事務費については、日本遺産魅力発信推進を目的に行政から支援を得る。費用が生じる事業に関しては、協議会以外の団体等が実施主体となり、協議会は金銭面以外を支援する。様々な機会を通して、やる気のある人材を発掘・支援し、継続的な人材確保と新たな取組みの機運を高める。		
事業費	2028年度：965千円 2029年度：965千円 2030年度：965千円		

	内訳：2028年度：③525千円＋④440千円 2029年度：③525千円＋④440千円 2030年度：③525千円＋④440千円
継続に向けた事業設計	会議開催や出席に関して生じる事務費については、日本遺産魅力発信推進を目的に行政から支援を得る。費用が生じる事業に関しては、協議会以外の団体等が実施主体となり、協議会は金銭面以外を支援する。様々な機会を通して、やる気のある人材を発掘・支援し、継続的な人材確保と新たな取組みの機運を高める。

(7) - 4 整備			
(事業番号4-A)			
事業名	日本遺産に触れるための環境整備		
概要	ハード・ソフト両面から環境整備を進め、様々な場面において日本遺産に触れる機会を創出する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	郡山市歴史情報博物館での日本遺産コンテンツ動画の活用	本市の「歴史・文化遺産」を保全・整備活用する施設の新設に伴い、日本遺産コンテンツ動画の配信を行う。併せて、構成文化財や文化施設が集積する立地を生かした周遊観光の拠点としての機能を持たせる。	行政
②	開成館、安積歴史博物館のガバメントクラウドファンディングを踏まえての復旧促進	2度の福島県沖地震で被害を受けた、日本遺産ストーリーのシンボリック存在である開成館及び安積歴史博物館のガバメントクラウドファンディングが行われたが、さらなる復旧に向けて協議会全体でPRを進める。	行政、民間事業者
③	開成山公園Park-PFI事業	Park-PFIによる民間活力を活用した整備（構成文化財の管理・保全、構成文化財や日本遺産関連モニュメントが多数設置されている園内を一体的に活用したイベントの開催等）を継続して進め、賑わい創出とシビックプライドの醸成を図る。	行政
④	郡山公会堂のユニークベニュー施設としての活用	市制施行を記念して建設された、郡山市発展の象徴的建物である郡山公会堂について、特にコンベンション開催時のユニークベニューとしての活用を進める。	行政 郡山コンベンションビューロー
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	構成文化財の活用数		709
2023			778
2024			526

2025	構成文化財の活用数	579
2026	構成文化財の活用数	636
2027	構成文化財の活用数	700
2028	構成文化財の活用数	770
2029	構成文化財の活用数	847
2030	構成文化財の活用数	932
事業費	2025 年度：81,426 千円 2026 年度：81,228 千円 2027 年度：82,708 千円 内訳：2025 年度①6,754 千円＋③74,672 千円 2026 年度①6,754 千円＋③74,474 千円 2027 年度①8,234 千円＋③74,474 千円	
継続に向けた事業設計	費用が生じる事業に関しては、協議会以外の団体が実施主体となり、協議会は金銭面以外を支援する。地域の歴史と日本遺産ストーリーは親和性が高いため、各種事業に日本遺産の特色を取り入れてもらい、施設利用者が日本遺産に触れる機会をつくる。	
事業費	2028 年度：85,056 千円 2029 年度：88,792 千円 2030 年度：85,162 千円 内訳：2028 年度：①6,754 千円＋③78,302 千円 2029 年度：①10,688 千円＋③78,104 千円 2030 年度：①10,688 千円＋③74,474 千円	
継続に向けた事業設計	費用が生じる事業に関しては、協議会以外の団体が実施主体となり、協議会は金銭面以外を支援する。地域の歴史と日本遺産ストーリーは親和性が高いため、各種事業に日本遺産の特色を取り入れてもらい、施設利用者が日本遺産に触れる機会をつくる。	

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	観光環境の充実		
概要	既存の地域資源や人材を活用し、日本遺産ストーリーを体験（例：疏水の恵みを体感する農業体験、猪苗代湖での体験アクティビティ、施設見学、VR等）する受け皿を強化し、新たな来訪者獲得につなげる。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産ストーリーを学ぶことのできる教育旅行をターゲットとしたガイドブック制作とそれらを活用した営業展開	地域の特色である日本遺産ストーリーを学ぶことのできる教育旅行をターゲットとしたガイドブックの制作を進める。また、完成したガイドブックをもとに、県内外の学生向けプロモーションを行い、教育旅行の獲得につなげる。	民間事業者、協議会、行政、施設管理者
②	一本の水路セミナーへのタクシードライバー・ホテル・旅館フロント担当者の参加促進	旅館やホテルのフロント担当者、バスやタクシーのドライバーが情報を共有し、地域の魅力の一つである日本遺産「一本の水路」のストーリーを来訪者へ効果的に伝えることができる知識などを習得すること、またガイドの担い手増加と知識の深化を図り、ガイドの特性（生涯学習向け、外国人向け等）を生かした活動展開の基礎とすることにより、来訪者の満足度を高めることを目的として、前述の複合型研修会「一本の水路セミナー」への該当者の参加を促進する取り組みを実施する。	民間事業者、協議会、行政、施設管理者
③	他地域、特に日本三大疏水との連携	同じ日本遺産認定地域である福島県内の会津に加え、琵琶湖疏水や那須疏水との更なる連携を模索する。	協議会
④	日本遺産関連商品の制作販売	民間事業者は認定ストーリーのキーワード「挑戦」「多様性」「共生」に深く関連付けられる産品を制作する。協議会は、開拓者精神の象徴としてそれらを認証し、観光客向け販売品につながるよう支援する。	民間事業者協議会
⑤	JICA 視察受け入れを契機としたインバウンド誘致	JICA 視察受け入れを契機として、受け入れ態勢の充実を図り、日本遺産ストーリーを体験してもらうことを目的としたインバウンド誘致に取り組む。	民間事業者、協議会、行政、施設管理者
⑥	福島空港利活用客の誘客	日本遺産ストーリーを体験してもらうことを目的として、台湾、ベトナムをはじめとした福島空港利活用客の誘客を図る。	民間事業者、協議会、行政、施設管理者

⑦	プロスポーツチームを活用した観光誘客	組織改編に伴い文化スポーツ観光部となったことを活かし、プロスポーツチームのサポーターリングマッチでのブース出展をはじめとした誘客推進への施策を充実させる。	民間事業者、協議会、行政、施設管理者
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022			5,260,989
2023	郡山市及び猪苗代町の観光客入込客数		6,018,440
2024			6,290,775
2025	郡山市及び猪苗代町の観光客入込客数		6,605,314
2026	郡山市及び猪苗代町の観光客入込客数		6,935,579
2027	郡山市及び猪苗代町の観光客入込客数		7,282,358
2028	郡山市及び猪苗代町の観光客入込客数		7,646,476
2029	郡山市及び猪苗代町の観光客入込客数		8,028,800
2030	郡山市及び猪苗代町の観光客入込客数		8,430,240
事業費	2025年度：1,810千円 2026年度：1,810千円 2027年度：1,810千円 内訳：2025年度：①1,800千円+②10千円 2026年度：①1,800千円+②10千円 2027年度：①1,800千円+②10千円		
継続に向けた事業設計	地域づくりを目的とした福島県の補助制度を活用することで事業費を確保する。会議開催等で生じる事務費については、日本遺産魅力発信推進を目的に行政から支援を得る。 様々な機会を通して、やる気のある人材を発掘・支援し、継続的な人材確保と新たな取組みの機運を高める。		
事業費	2028年度：1,810千円 2029年度：1,810千円 2030年度：1,810千円 内訳：2028年度＝①1,800千円+②10千円 2029年度＝①1,800千円+②10千円 2030年度＝①1,800千円+②10千円		
継続に向けた事業設計	地域づくりを目的とした福島県の補助制度を活用することで事業費を確保する。会議開催等で生じる事務費については、日本遺産魅力発信推進を目的に行政から支援を得る。 様々な機会を通して、やる気のある人材を発掘・支援し、継続的な人材確保と新たな取組みの機運を高める。		

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	各団体との連携による普及啓発		
概要	地域内外の人が様々な形で日本遺産ストーリーに触れる機会を創出し、シビックプライドを醸成する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	学校教育での活用の継続	郡山市内の小学4年生が総合学習の時間で一本の水路ストーリーを学んでいることを活かし、教育機関への出前講座や、小学校授業に使用する副読本掲載を通して、子どもたちとその家族の日本遺産に対する認知を高める取り組みを継続する。	教育機関
②	一本の水路ブランド認証事業	一本の水路ブランド認証事業を継続する。協議会は、日本遺産に関連付けられる活動を開拓者精神の象徴として認証し、支援する。	民間団体協議会
③	SNSの活用	フォロワー(市民・関係人口)が撮影し投稿した写真をリポストする参加型の手法で、構成文化財やその周辺スポットを視覚的に紹介。フォトコンテスト及び入賞作品を発表する写真展を開催し、駅構内の商業施設やウェブサイト上で日本遺産の概要紹介と共に周知することで、若年層の新たな認知を獲得し、地域資源の魅力を再認識する機会を創出する。	行政
④	日本遺産RPG開発事業の実施	日本遺産ストーリーにちなんだスマホアプリを開発する。事業の実施にあたっては、市内外の人に積極的に開発に関わってもらうほか、専門学校生などのDX人材にも開発に関与してもらい、開発関係者の郷土愛を醸成するとともに、その関係人口化を目指しながら事業を進め、地域の魅力をより広範囲に発信する。	行政、民間事業者、専門学校生
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	安積開拓・安積疏水の認知度		88.9%
2023			87.2%
2024			88.4%
2025	安積開拓・安積疏水の認知度		88.9%
2026	安積開拓・安積疏水の認知度		89.4%
2027	安積開拓・安積疏水の認知度		89.9%
2028	安積開拓・安積疏水の認知度		90.4%
2029	安積開拓・安積疏水の認知度		90.9%
2030	安積開拓・安積疏水の認知度		91.4%

事業費	2025年度：4,967千円 2026年度：4,967千円 2027年度：4,967千円 内訳：2025年度：③2,677千円+④2,290千円 2026年度：③2,677千円+④2,290千円 2027年度：③2,677千円+④2,290千円
継続に向けた事業設計	地域の各種取組みに日本遺産を活用してもらい、様々な視点で日本遺産ストーリーに触れる機会を創出する。 日本遺産に対する認知度・関心度・活動意欲を高めることで、新たな事業創出へとつなげ、将来の民間主導の原動力とする。
事業費	2028年度：4,967千円 2029年度：4,967千円 2030年度：4,967千円 内訳：2028年度：③2,677千円+④2,290千円 2029年度：③2,677千円+④2,290千円 2030年度：③2,677千円+④2,290千円
継続に向けた事業設計	地域の各種取組みに日本遺産を活用してもらい、様々な視点で日本遺産ストーリーに触れる機会を創出する。 日本遺産に対する認知度・関心度・活動意欲を高めることで、新たな事業創出へとつなげ、将来の民間主導の原動力とする。

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	地域団体と連携した情報発信		
概要	来訪者が必要とする日本遺産に関する情報を地域内で共有し、様々な主体がもつ媒体を通して情報発信を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	報道機関による情報発信	地元テレビ局や新聞社、フリーペーパー紙に取り上げてもらい、日本遺産を目にする機会をつくる。	報道機関
②	コンベンション冊子への周遊ルート掲載の継続	コンベンション参加者へ配布するビジターズガイドに日本遺産周遊ルートを掲載し、アフターコンベンションの活用等につなげる取り組みを継続する。	郡山コンベンションビューロー
③	ウェブサイトの運用・更新 ・こおりやまレター(市ウェブサイト) ・郡山へ行こう!(郡山市観光協会ウェブサイト) ・郡山コンベンションビューローウェブサイト ・Instagram	日本遺産ストーリーや各構成文化財の紹介、アクセス等を掲載し周遊を促すとともに、長期滞在や経済効果を目的に宿泊先やお土産品の情報を随時掲載する。	協議会 観光協会 郡山コンベンションビューロー
④	旅行商品開発に係る情報発信	日本遺産をテーマとした旅行商品の情報発信について、旅行会社ウェブサイトでの自社販売、海外OTAでの販売等、ターゲットに合わせた効果的な販売方法を選定し、実施する。併せて日本遺産ポータルや観光協会の既存ウェブサイトとリンクさせ、日本遺産情報につなげる。	協議会 観光協会等
⑤	プレスリリース配信サービスの利用	プレスリリース配信サービスを利用して、日本遺産ストーリーを首都圏・全国向けにPRする。	報道機関

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	安積開拓・安積疏水の認知度	88.9%
2023		87.2%
2024		88.4%
2025	安積開拓・安積疏水の認知度	88.9%
2026	安積開拓・安積疏水の認知度	89.4%
2027	安積開拓・安積疏水の認知度	89.9%

2028	安積開拓・安積疏水の認知度	90.4%
2029	安積開拓・安積疏水の認知度	90.9%
2030	安積開拓・安積疏水の認知度	91.4%
事業費	2025年度：5,050千円　2026年度：5,050千円　2027年度：5,050千円 内訳：2025年度＝①50千円＋②5,000千円 2026年度＝①50千円＋②5,000千円 2027年度＝①50千円＋②5,000千円	
継続に向けた事業設計	各団体が保有する既存の情報媒体を活用し、様々な場面で日本遺産ストーリーに触れる機会をつくる。	
事業費	2028年度：5,050千円　2029年度：5,050千円　2030年度：5,050千円 内訳：2028年度＝①50千円＋②5,000千円 2029年度＝①50千円＋②5,000千円 2030年度＝①50千円＋②5,000千円	
継続に向けた事業設計	各団体が保有する既存の情報媒体を活用し、様々な場面で日本遺産ストーリーに触れる機会をつくる。	